

概要版

宮島ルネサンス計画 厳島宣言

本市では、平成27(2015)年1月に策定した「廿日市市観光振興基本計画」に基づき、観光施策を進めていますが、基本計画で想定していない新型コロナウイルス感染症の影響が長期に及び、観光産業は、深刻な影響を受けています。特に、これまで国内外から多くの観光客が訪れていた宮島は観光客が激減しており、宮島の「再生、復興」のため、ポストコロナを見据えた「宮島ルネサンス計画」を策定しました。

宮島ルネサンス計画は、世界遺産宮島の自然・文化・歴史などの普遍的価値を活かした「宮島らしい」観光を推進し、持続可能な観光地域づくりのために目指すべき方向性を定めた令和6(2024)年度までのアクションプランです。

宮島の「再生、復興」のスタートとなり、市内の観光産業の持続的な発展につながるよう、様々な主体と連携し、積極的に推進します。

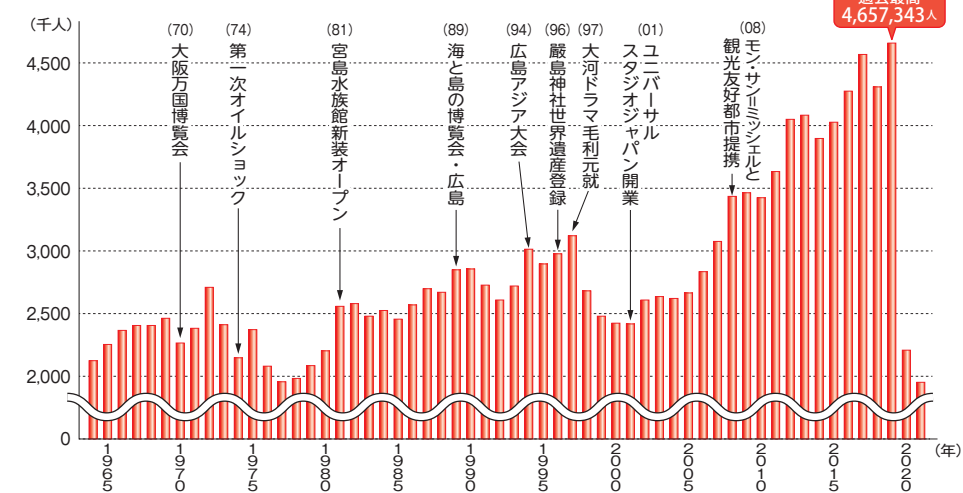
厳島

令和4(2022)年3月

廿日市市観光課

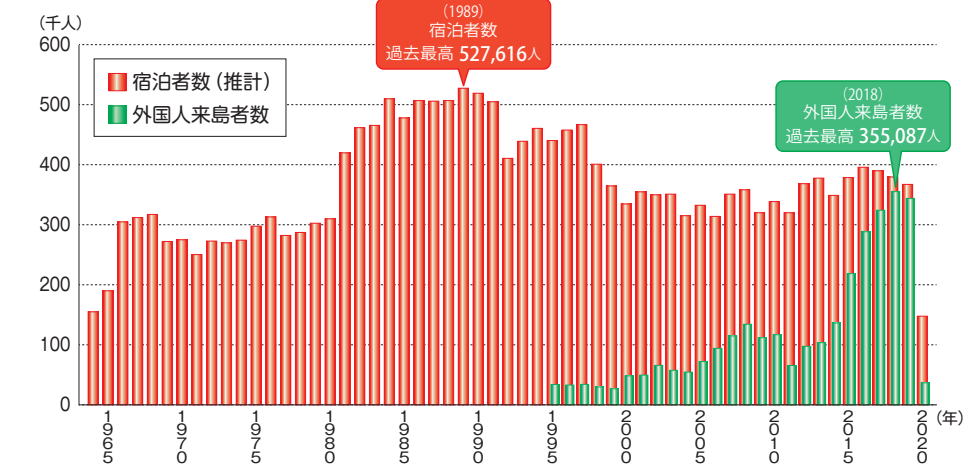
データで見るコロナ禍前の宮島を訪れた観光客の状況

宮島来島者数の推移(1964年～2021年)



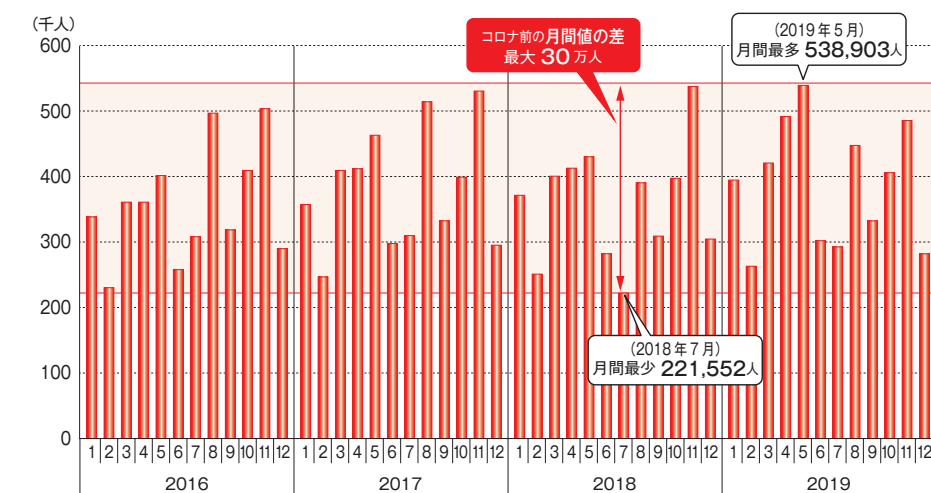
コロナ禍前(2019年以前)の宮島来島者数を見ると、2007年に300万人を超えて以降急増し、2010年代には400万人、2019年には過去最高の465万7千人の来島者数になりました。

宮島宿泊者数・外国人来島者数の推移(1964年～2020年)



宿泊者数は1980年代に50万人台を記録していましたが、2000年代以降は30万人台で推移しています。また、外国人来島者数は2015年以降急増し、2018年に35万5千人を記録しています。

宮島来島者 月別推移(2016年～2019年)



コロナ禍直前4年間(2016～2019年)の宮島来島者数について月別に見ると、例年5月、8月、11月が多く50万人前後、2月、6月、7月、12月が少なく20万人台となる傾向にあり、月間値の最大差は約30万人となっています。

厳島宣言

廿日市市観光振興基本計画

現行の観光振興基本計画（2015年度～2024年度）では、地域内の消費増加（地域外貨獲得）、地域住民の活力向上（住んでよし）、地域外からの来訪者のイメージ向上（訪れてよし）を図るものであり、「廿日市市を訪問した観光客から、リピーターやファンを獲得し、将来的に廿日市市への移住を検討・実践する人の増加を目指す」ことが明記されています。

本計画は、基本計画に想定していない新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた宮島の「再生・復興」のため策定するものですが、現行の計画の基本方針を踏まえたものとなっています。

宮島ルネサンス計画の基本方針

コロナ禍直前には年間450万人を越える来島者を迎えていた宮島においては、観光客が集中する特定日などにオーバーツーリズム（観光客が多すぎて住民生活に影響が出る状態）が発生していました。

宮島ルネサンス計画の基本方針は、キャッチフレーズとして「**三方よし 厳島宣言**」を掲げ、混雑緩和、平日の観光客数増加等、宮島を快適に過ごせる取組を進めつつ、世界遺産の自然や歴史を保全・継承し、観光関連産業の振興を図る、**観光客、地域環境、地域経済の「三方よし」**を目指します。

三方よし 厳島宣言

コロナ禍による観光ニーズの変化に対応し、デジタル技術も活用しながら、自然や歴史をゆつたりと楽しめる快適な宮島を創出することにより、観光客、地域環境、地域経済の「三方よし」を目指します。

3つの方針
6つの方策

